

戦後 70 年・日韓（韓日）条約 50 年にあたって

日韓関係と歴史認識

— 韓国労働運動の視点から —

日時：2015年6月16日（火）

開会 18:30～（開場 18時00分）

場所：イーブルなごや 第4会議室(3F)

地下鉄 名城線「東別院」下車 1 番出口から東へ徒歩 3 分

講演：許 榮九（ホ・ヨング）さん

허영구

元民主労総首席副委員長

資料代：800円（学生 300円）



今年には戦後 70 年、日韓（韓日）条約 50 年の年です。安倍首相は、8 月 15 日に向けた戦後 70 年談話を発表しようとしています。その内容は、これまで日本政府の立場であった 1995 年の村山談話の「支配と侵略」、「痛切な反省と心からのお詫び」に、否定的な戦後 70 年談話になるとマスコミでは報道されています。これは絶対許されることではありません。日本は、沖縄戦を除き海外から「侵略」を受けるということはなく、すべてアジアへ軍隊を出して侵略支配を行ってきました。特に朝鮮半島においては、植民地支配を 40 年余りにわたって行い、非道な行為を繰り返しました。戦後も朝鮮戦争では、アメリカに加担して特需を得て朝鮮半島の分断固定化に協力してきました。

私たちは、戦後 70 年の日韓関係を紐解きながら、アジアとりわけ朝鮮半島の労働者・民衆と歴史認識を共有し、連帯する運動を作っていかなければなりません。韓国から労働運動指導者を迎え、韓国の情勢や考え方を聞きながら、私たちのあり方を考えたいと思います。ぜひご参加ください。

実行団体 「韓国併合100年」東海行動実行委員会、笹島日雇労働組合

不戦へのネットワーク、東海民衆センター、ユニオンと連帯する市民の会、

APWSL 愛知(アジア太平洋労働者連帯会議)

問合せ 070(5257)1953(大西)・090(5851)5976(岩田)